

# 中国アモイ市留学報告書

宜野湾市派遣留学生

第 11 期生 比嘉美和



## 1 留学先

厦門理工學院(アモイ理工學院) ビジネス学科

アモイ理工學院は1981年に造られた公立大学です。2003年には新たな学科が設けられ、20000人を超える学生が在籍しています。(私の通う琉球大学は、研究員の方も含めて8000人です。)

## 2 留学期間

2012年8月～2013年8月 (1年間)

## 3 留学への決意

私は琉球大学 法文学部 国際言語文化学科に所属しています。高校二年の頃から大学での留学を考えていましたが、実際に大学に上がると、課外活動や教育実習などで1～3年次までは、留学するチャンスをつかめずにいました。そんな中で、市報に載っていた先輩方の報告を目にし、友好都市であるアモイ市で中国語学と中国文化を学ぶためと思い応募しました。また、私は中国文学の研究室に所属しており、留学で様々な中国文化に触れ、卒業論文の研究テーマを決めようと考えていました。

## 4 留学における目標

- 1) 中国文化や習慣の理解
- 2) 新 HSK6 級合格

## 5 留学生活について

### 【寮生活】

学校の前にバス停がありますが、そこから一駅先が私たち留学生の宿舎です。宿舎は団地のようになっていて、敷地内には幼稚園やコンビニがあります。一般の人も多く住んでおり、午後7時になると、健康のために住民があつまりダンスを踊ります。最近では日本と同じく「韓流ブーム」で、いたる所でK-popが流れていました。

寮には、TVや冷蔵庫、レンジなどの生活家電が備え付けられており、別の留学生とのルームシェアですが、ベッドルームは一人に一部屋です。私は韓国人留学生とルームシェアをしていましたが、文化交流もでき、かつプライベート空間も守られていたので、とても快適でした。

### 【食堂】

アモイ理工學院は、大規模な食堂が三箇所あります。その上、学校と契約をした店がフードコートのように出店しているため、食べたい料理を様々な種類の中から選ぶことができます。なかなか地元に戻ることに出来ない遠方出身の学生も多いのですが、食堂で地元の料理を食べることができ、とても便利です。

お昼時間は教授や大学職員だけしか入れない食堂があります。もう二箇所の学生も一緒に入れる食堂には、ソファテーブルがありますが、お昼時間だけ教授専用となっています。

**【時間割】**

〈上学期(前期)〉

		月	火	水	木	金			
午前	1限	中級中国語 リーディング		中級中国語 リーディング		中級中国語			
	2限								
	3限			文化比較		書道	中級中国語 リスニング	ビジネス リスニング	
	4限								
午後	5限	ビジネス 会話			ビジネス ライティング				
	6限								
	7限	ビジネス リスニング							武術
	8限								

〈下学期(後期)〉

		月	火	水	木	金			
午前	1限				ビジネス中国語 リスニング				
	2限								
	3限						中西文化 比較	書道	
	4限								
午後	5限	ビジネス中国語	ビジネス 交流	★課外活動	ビジネス中国語 ライティング				
	6限								
	7限						武術		
	8限								

## 【授業】

アモイ理工学院が留学生の受け入れを開始したのは最近で、私で二期目です。他の留学生はジンバブエ・フィリピン・ウクライナ・韓国・オランダ・ザンビア・アメリカ出身で、それぞれの文化についての「お国紹介」も行われました。

授業は、10人以下で構成されており、分からないところがあるとすぐに質問出来る勉強しやすい環境でした。私はビジネス中国語学科に在籍していたため、授業のほとんどがビジネス関係の内容でした。ピンインが読めるということだけで、上級クラスになったので、とても不安でしたが、10期派遣生の高江洲さんから紹介いただいた現地の学生のサポートもあり、無事に全過程を終えることができました。

## 【休日】

休日はBRTという高速バスに乗り、おいしい物を求めて様々な場所に行きました。その他にも、スパやマッサージなどのリラクゼーションスポットにも行きました。授業の合間の時間で遊びに行くこともありました。

## 【課外活動】

### ・サークル活動

サークルや部活は、琉球大学とは異なり、自由性が高いように感じます。例えば、バレーボール部は「毎日に練習に行って、次の試合で勝つ！」という意気込みではなく、「個人の時間を大切にし、無理せず楽しむ」という姿勢で参加しているように感じました。また、学内の大会も多く、中でもダンス大会では部活やクラス単位でチームを組んで参加する様子も見られました。

## 【図書館】

授業の予習復習や試験勉強は、図書館を利用していました。入館するためには学生証か学生手帳が必要です。

### ・日本語学科の学生との交流

日本語学科があり、日本語に興味のある学生がとても多く在籍しているため、「日本映画の鑑賞会」や「おにぎりづくり」などの活動に参加する機会がありました。

### ・毎週水曜日の中国語サークル

外国人に中国語を教える技術を学ぶ学科があり、後期にこの学科の学生が主催する中国語サークルが発足しました。餃子の作り方や礼儀作法などを学び、中国文化を学ぶ良い機会となりました。

### ・「イモの会」への参加

福建省の沖縄県人会です。芋の葉が横に大きく広がっていくように、広く深い交流活動を目指しています。定期的にあつまり、交流会を開いています。

## 【一年間の流れ】

〈2012年〉

• 8月：アモイ市内見学、引継ぎ式、入寮

到着後一週間は旧校舎向かいのホテルに宿泊しました。この一週間で、10期派遣生の麻利子さんとの引継式や、市内観光も行いました。

• 9月：アモイ貿易商談会への参加、始業、中秋節、茶山へホームステイ

毎年9月8日は世界中の企業が参加するアモイ貿易商談会が開催されます。沖縄からも18社の企業が参加し、私もボランティアとして参加させていただきました。各大学から同世代の学生が通訳として参加をしており、始業前のよい刺激となりました。

• 10月：国慶節（杭州と寧波でホームステイ）、「イモの会」発足

10/1は毛沢東が中華人民共和国を建国した日とされ、一週間の大型連休があります。その連休を利用して、友人の親戚の家でホームステイをしました。ひとつの家庭だけではなく、「一族」で囲む夕飯にはとても驚きました。

• 11月：新HSK4級に向けての勉強

中国語運用能力の高い韓国人学生と授業を受けていることと、授業の難易度が高すぎるため、日常会話の強化を目的に新HSK4級の学習に力を入れました。

• 12月：新HSK4級試験、前期末試験、アモイ市内でホームステイ

期末試験は、PPT発表や討論がとても多く、筆記試験はほとんどありません。日本の授業と比べ、実践型のテストが多い印象です。PPT発表のテーマ例「『軽自動車』の流通－日本と中国の比較－」

〈2013年〉

- 1月：アモイ国際マラソン、春節（湖北でホームステイ）  
1ヶ月の長期休暇を利用し、湖北でホームステイをしました。
  - 2月：後期開始、新HSK5級に向けての勉強  
後期には新しい留学生と一緒に授業を受けます。
  - 3月：新HSK5級試験
  - 4月：清明節  
沖縄県出身者が集う「イモの会」に参加し、琉球墓園でシーミーを行いました。遠く離れた地でご先祖様に手を合わせることができ、福建省と沖縄の関係性を改めて実感しました。
  - 5月：校内中国語コンテスト  
大学内で行われた中国語コンテストです。中国の詩の朗読やカラオケなど、中国語に関連する出し物であればテーマは問いません。
  - 6月：端午节  
旧暦5/5は端午節です。河に身を投じて死んだ詩人である屈原の詩を尊び、人々が河へ粽を投げ入れたことがはじまりとされています。この時期に竜船レースなどが開催されます。
  - 7月：後期終了、新HSK6級に向けての勉強、漢語橋コンテスト  
CCTVが主催する漢語橋コンテストに出場しました。このコンテストは、中国に関係する出し物を披露するコンテストで、初めてモンゴル族の踊りを披露しました。
  - 8月：武漢と上海の観光、新HSK6級試験、帰国  
8月はアモイでの新HSK6級の試験が開催されないということで、武漢で試験を受けることにしました。帰国前の数日間は上海観光をしました。上海は高層ビルが多くあり、ユニークな形をしているものが多くありました。高級デパートも多く、ビジネスの中心地として発展しています。日本人向けのレストランやサービスも多く見かけました。
- ★一つの成果として考えていた新HSK6級の取得は、留学当初から計画をたて、合格することができました。4級からしっかり勉強していったことが6級合格に繋がったと思います。

## 6. 帰国後の取り組み

### ・2013年9月1日～2013年9月8日

中国ハルビンで文化交流。

### ・中国語サークル引き継ぎ

帰国後、同じ専攻の先輩が創設した「中国語サークル」に入りました。主に台湾出身の留学生が多く、毎週水曜日のお昼には、みんなでランチをしています。休みの日には、イベントを開催し交流を図っています。

### ・中国人留学生との交流

私は琉球大学の留学生センターを通して、チューター登録をしています。「チューター」とは、日本人学生が留学生の生活や日本語学習をサポートする人のことで、現在私は、中国大陸の留学生をサポートしています。この制度を利用し、中国の友達をつくり交流をしています。

### ・英語科目の履修

留学生活で英語の大切さを痛感し、今まで逃げていた英語に積極的に取り組んでいこうと考えています。

### ・うちなーぐちの勉強

アモイ留学中、ほとんどの人が閩南語を話していました。その他の地域（湖北、杭州など）にも方言がありますが、どの地方の若い人でも、方言と普通語の両方を使い分けて話しています。私も沖縄の方言を見直そうと考え、うちなーぐちの講義を履修しています。最近では、両親とうちなーぐちで話す機会も増えました。

## 7. 終わりに

この一年は「縁」のある年であったと感じます。両国の問題がありましたが、留学を通して出会った現地方の優しさには、本当に助けられましたし、中国語学習の励みになりました。中国人学生はもちろん、他外国の学生と意見交換する場も多くあり、留学開始当初は文化の違いに悩まされました。様々な方と交流する中で、市販のお茶になぜ砂糖が入っているのか、真夏なのになぜお湯を飲むのか、ヨーロッパの人はなぜ自分の意見を強く主張するのか……など、私の「ありえない」ことが、一歩外に出ると「あたりまえ」になることを感じ、いままでの自分がいかにちっぽけだったのかに気づかされました。宜野湾市の派遣留学生として中国アモイへ行けたこと、アモイですばらしい友人に出会えたこと、その全てが私の財産です。現在、大学三年で、就職活動期という分岐点に立っています。この経験を生かし、悔いの無いように一つ一つこなしていこうと思います。

宜野湾市市役所の皆さま、宜野湾市のみなさま、一年間ありがとうございました。